

評価シート(令和7年度分)

基本情報

施設名	背振少年自然の家・海の中道青少年海の家	指定管理者	あゆみらい福岡市自然の家共同事業体
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日 (評価期間は令和7年4月1日～令和8年3月31日)	所管課	こども未来局こども政策部こども健全育成課

1 業務の履行に関する評価

A～C

評価項目	評価	評価の理由
1 施設の運営	A	改善指示・指導の実績なし
2 施設等の維持管理	A	改善指示・指導の実績なし
3 事業の実施	A	改善指示・指導の実績なし

2 サービスの質に関する評価

A～E

評価項目	評価	評価の理由
1 施設の利用状況 (1) 利用者数 (2) 収入 (3) 特に成果をあげた事項等	C	・両施設合計の延施設利用者数は、87,500人の目標に対し、77,057人となったが、前年度から4.6%増加している。 ・収入は、両施設合計で106,870千円(税抜)となり、目標には届かなかったものの前年度から10.3%増加している。 ・自然の家では市内外への積極的な営業活動や施設外利用の拡大に取り組み、海の家では海浜公園の休園日設定による利用環境の変化に対応するため、代替プログラムを開発するなど、利用促進に向けた取組みに一定の成果が認められる。
2 事業の実施状況 (1) 指定管理者企画事業の参加者数(達成率) (2) 指定管理者企画事業の参加者満足度 (3) 自主事業の参加者数(達成率) (4) 自主事業の参加者満足度 (5) 特に成果をあげた事項等	B	・企画事業の参加者数は一部目標に届かなかったが、実施した事業の満足度はいずれも概ね90%以上と高い水準であった。 ・自然の家では「せふりオープンデー」(1回224人参加)や、「星と遊ぼう会」(11回計499人参加)、出張出前講座等の実施により、合計1,200人と前年より481人増加。海の家では、「ファミリーキャンプ」(4回計108人参加)や近隣施設と連携した「ナイトミッション」(3回計176人参加)の実施により、合計1,615人と前年より457人増加した。 ・天候等の影響を受けやすい事業についても、雨天時に実施可能な内容への振替や地域施設での開催など、実施方法の工夫が見られる。
3 利用者満足度 (1) 利用者アンケートの結果 (2) 利用者からの意見・苦情等への対応	B	・利用者アンケートでは、両施設とも90%以上の高い満足度を維持している。 ・利用者からの意見については施設会議等で共有し、福岡市とも適宜協議しながら改善に取り組んでいる。
4 提案の実施状況 (1) 施設の設置目的を踏まえた管理運営方針 (2) 管理運営の実施体制 (3) 施設の適切な維持管理 (4) 事故等の防止等 (5) 苦情等の未然防止等 (6) 事業の実施計画 (7) 学校利用に対する配慮 (8) 利用者に対するサービスの向上 (9) 利用者増の方策 (10) 経費削減の取り組み (11) 市の施策に寄与する取組等	B	天候等の影響により一部実施できなかったものはあるが、施設の設置目的を踏まえた管理運営や利用者サービス向上等について、提案の大部分が実施されている。 また、老朽化した施設・設備についても、日常的な点検や不具合の早期把握に努め、迅速かつ的確な修繕対応を行うことで施設機能の維持及び利用者の安全確保に取り組んでいる。

3 経済性・効率性に関する評価

A～C

評価項目	評価	評価の理由
1 収支の実績	C	両施設全体では、収支計画と実績の乖離が生じており、実績は僅かだが赤字となった。
2 経費の縮減	B	職員自ら補修・修繕を行うことで、外部発注を抑えるなど、具体的な経費縮減に取り組んでいる。

4 その他施設の管理運営にあたり工夫し成果をあげた取組等(加点事項)

従来の自然教室等の受入れを中心とした運営に加え、営業担当を配置し、両施設と連携を図りながら利用促進に向けた取組みを継続して実施している。積極的な渉外活動や出張事業、ブース出展等を通じて施設の認知度向上と新規利用者の開拓に取り組み、これまで利用の少なかった地域や団体からの利用拡大につなげるなど、新たな利用者層の獲得に成果を上げた点は、指定管理者の主体的な経営努力として高く評価できる。

5 指定管理業務における不適切な行為(減点事項)

指導状況	不適切な行為の内容	改善状況
なし	—	

6 市による総合評価

上記1～5を踏まえ、下記の通り評価を行う。

B	令和7年度は、両施設とも利用者数及び利用料金収入が前年度を上回るなど、取組みの成果が見られた。また、利用者アンケートにおいても高い満足度を維持しており、利用者ニーズを踏まえたサービス改善や安全・安心な施設運営に継続して取り組んだことは評価できる。 背振少年自然の家においては、出張自然体験事業や積極的な営業活動等を通じた新たな利用者層の開拓に取り組み、施設の認知度向上及び利用促進につなげた。海の中道青少年海の家においては、海浜公園休園日への対応として代替プログラムを開発するなど、利用環境の変化に柔軟に対応しながらサービス水準の維持・向上に努めた点が評価できる。 一方で、企画事業の参加者数や利用料金収入については目標に達していない項目も見受けられた。今後も利用者ニーズや社会情勢の変化を的確に捉えながら、更なる利用促進や収支改善に取り組むとともに、これまで培ってきた地域連携やSNS等による広報活動を活かした施設運営を期待する。
---	--

【総合評価】 A:非常に優れている B:優れている C:標準 D:少し劣っている E:劣っている

《評価基準・配点割合》

《項目別得点》

1 配点: 30 基準点: 21 最低: 9

A	改善指示・指導の実績無し	10 点
B	改善指示(口頭)の実績あり	7 点
C	改善指導(注意)の実績あり	3 点

30 点

2 1～3 配点: 75 基準点: 45 最低: 15

A	非常に優れている	25 点
B	優れている	20 点
C	標準	15 点
D	少し劣っている	10 点
E	非常に劣っている	5 点

55 点

2 4 配点: 25 基準点: 15 最低: 5

A	全て実施	25 点
B	ほとんど実施	20 点
C	概ね実施	15 点
D	実施が不十分	10 点
E	極めて不十分	5 点

20 点

3 配点: 20 基準点: 14 最低: 6

A	優れている	10 点
B	標準	7 点
C	劣っている	3 点

10 点

4 特筆すべき成果1項目につき 10 点加点 評価項目数・・・ 1 項目

10 点

5 業務の停止・改善指導等の実績による減点

0 点

6 配点: 150 基準点: 95 最低: 35

A	150 点以上	全ての項目の評価が「優れている」以上
B	110 点 ～ 149 点	「A」と「C」の間
C	81 点 ～ 109 点	基準点(全ての項目の評価が「標準」)±15%
D	36 点 ～ 80 点	「C」と「E」の間
E	35 点以下	全ての項目の評価が「劣っている」以下

125 点